



霧が丘

令和2年10月23日
横浜市立義務教育学校
霧が丘学園
校長 出口 晴基

学びあえる喜び

中学部副校長 池上 太郎

秋も深まり、日が短くなってきました。前期が終わり10月12日から後期が始まっています。中学部の生徒会本部役員も選挙を経て新たなメンバーでスタートを切りました。残り半年、新しい生活様式を意識しながら、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じ、教育活動を進めていきたいと思えます。

さて先日、中学部では例年通りの体育祭に代わる「霧リンピック2020」がソーシャルディスタンスを意識した種目を中心に開催されました。台風の影響で天気も心配されましたが当日は晴れ間も見え絶好の運動日和となりました。選手宣誓では9年生の代表生徒が修学旅行などの行事が中止になった悔しさや部活動を3年間続けてきた頑張りをこの行事ができることの喜びとして表現してくれました。各学年、全員リレーでは、仲間を気遣い全員でバトンを繋ぐ姿が、大縄跳びでは、一人一人が集中して跳び、クラスが一つになる様子が見られました。そして、色別対抗リレーでは、クラスの代表選手がみんなの想いをのせて迫力ある走りでグラウンドを盛り上げました。



今回の「霧リンピック2020」を通して、改めて行事の大切さを実感しました。様々な行事が今年は中止や延期になり、この感覚から少し遠ざかっていたような気がします。子どもたちは準備の段階から話し合いをしたり、練習をしたりする中で感情がぶつかり合いながらもお互いを思いやり、認め合い、一つの事を成し遂げようと頑張ります。それにかかわる教職員も子どもたちの活動から多くの事を学び、支援の幅を広げることができます。今回の参観は9年生の保護者の方と限定されましたが、参観した多くの方がいろいろな事を感じることができたと思えます。子どもも大人もそれぞれが感じとったものを成長につなげることができる。それが学校行事の素晴らしさではないでしょうか。

中学部では「あすなろ」が10月29日30日に、小学部では11月2日に運動会に代わる「きりっ子スポーツ2020」が行われる予定です。2つの行事を通して子どもたちは多くの経験をし、成長してくれることと思えます。本年度は地域の皆様に子どもたちの成長する姿を直接ご覧いただけないのは残念ですが、引き続き見守り、応援していただければと思います。